

～下田のデキゴト～



10/29 ハロウィンお菓子作り

中央公民館調理室にて、中央公民館講座親子和菓子作り教室を開催しました。親子9組20名に参加していただき、グループで協力してハロウィンをテーマにした3種類の和菓子を作りました。



11/1 森林体験教室

敷根公園で、伊豆森林組合と下田市による森林教室を開催しました。今年の下田小学校の4年生が参加し、ツリークライミング体験、木製コースター作り体験を行い自然を感じ楽しむことができました。



11/11 明治安田生命寄附

明治安田生命保険様から地元支援「私の地元応援募金」活動の一環として、51万6千円が寄贈されました。昨年に引き続き4回目の寄附で、感染拡大防止対策費用など有効に使わせていただきます。



11/12 南海トラフ地震に備え合同訓練

緊急消防援助隊の第6回全国合同訓練がサテライト会場の安田造船所跡地で行われました。南海トラフ地震の災害現場を想定し、倒壊家屋からの救助や津波漂流者の救出訓練に取り組みました。



11/17 市町対抗駅伝結団式

12月3日(土)開催の静岡県市町対抗駅伝競走大会に向け、下田市選手団の結団式を行いました。選手・監督・スタッフが一丸となり、チームの思いをのせたタスキを繋いでゴールを目指します。



11/19 土木の魅力体験

県下田土木事務所等により「土木の日」イベントが開かれました。会場では建設車両の展示・操作体験、測量体験やパネル展示などが行われ、高所作業車の乗車では、約10mの高さからの景色に子どもたちは興奮していました。

11月の できごと

- 3日 Sea&Rainbow We are shimoda kids
- 4日 これば！&お父さんと一緒に子育て講座
- 6日 大特産市
- 8日 秋の全国火災予防運動防災パレード
- 16日 全国瞬時警報システム一斉伝達訓練
- 18日 第67回下田市芸術祭
- 19日 河津下田道路（I期）起工式
- 20日 鮎の詩子どものためのおはなし会

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



11月の予定

- 4日(水) 開放開始
 - 5日(木) こま作り
 - 6日(金) こま作り
 - 11日(水) めだかルーム 9時～11時30分
 - 13日(金) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
 - 16日(月) 体育館で遊ぼう 9時30分～11時
場所：市民スポーツセンター(サンワーク)
 - 18日(水) あひるルーム 9時～11時30分
 - 20日(金) 誕生会 10時30分～
 - 23日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時
保健師・栄養士来所
 - 24日(火) うさぎルーム 9時～11時30分
 - 25日(水) 交通安全教室
 - 27日(金) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
 - 30日(月) 鬼のお面作りと節分のお話
 - 31日(火) 鬼のお面作りと節分のお話
- ※予定は変更になる場合があります。
詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。



あひるルーム(敷根公園)



ハロウィン

赤や黄色で彩られていた木々の葉も、いつの間にか散って、今年のカレンダーもあと一枚となり、慌しい季節がやってきました。感染予防のためにも手洗い、うがいの励行、十分な睡眠と栄養を心がけ、元気に過ごしましょう。また、寒いとついつい厚着をさせてしまいがちですが、暖房で暖まっている室内では上着での温度調節を心がけましょう。自分で体温調節ができない乳児には、大人の気遣いが大切ですね。



にこにこサークル製作



誕生日会

こんにちは、市長です
 ～バリアフリーを考える(後編)～

例えば駅のエレベーターや歩道の点字ブロック。身近なところでバリアフリーが進み、社会が着実に良くなっていると感じる。ただ、こうした施設整備が進むにつれ、大切な何か置き忘れられないだろうか。今回はその命題についての完結編です。

20年程前、アメリカへ2週間程度視察に行った。ポートランドやサクラメント等の市役所を回って、ある政策の先進的取組を調査したのだが、その間のある日のバスの乗り降りの時の出来事である。

よく「May I help you?」(何か手伝いましょうか)と、困っている人に声をかける風習が欧米の人たちに浸透していると言われる。私自身も外国で色々な人の親切に助けられた経験が少なからずある。ところがその日はその逆のこととあるバス停でバスから降りたとき、背後のバスの中から声がかかった。高齢の女性が「Can you help me?」(あなたたちよって手を貸してください)とお願いしたのだ。ああ、これが橋のある社会なのだ。装置や機械といった設備の整備拡充は、障害者の自立的行動を支える上で必要不可欠だ。しかし、設備があることで、人と人が互いに寄り合う気持ちまでもが薄められるようなことがあってはならない。

バリアも橋もひつきょう私たちの心の中にあるのかもしれない、と思うのです。

たちよって手を貸してください。とお願いした。足腰の弱って行く婦人が、何の遠慮もなく、ごく自然に「手を貸して」と言う。むしろ断る理由もない。私はハイハイと手を差し出して彼女がバスのステップから歩道に降りるのをサポートした。ありがたう、とその人は普通に礼を言い、歩道を去っていった。

このごく普通の自然な空気がとても爽快だった。良い社会だなと素直に思った。そしてその時、なぜかふと「橋のない川(先月号)」のことを思い出したのだ。ああ、これが橋のある社会なのだ。装置や機械といった設備の整備拡充は、障害者の自立的行動を支える上で必要不可欠だ。しかし、設備があることで、人と人が互いに寄り合う気持ちまでもが薄められるようなことがあってはならない。

